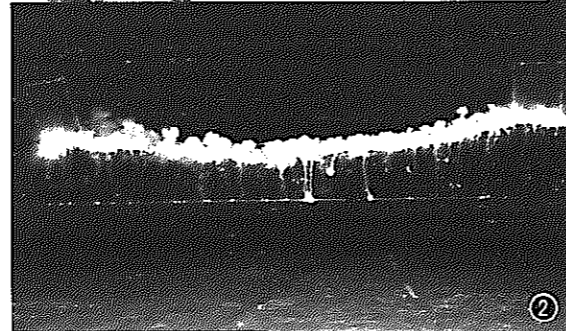


おいしい白根と
楽しい白根で

秋、満喫!

産業まつりと凧フェスティバルが一体となったしろねオータム・フェスティバル。すっかり恒例となったこのイベントが、10月5日・6日の2日間、白根総合公園を主会場として行われました。

好天にも恵まれ、市内外から訪れた観光客は約3万6,000人と過去最高を記録。心地良い日差しの下、秋の白根を存分に楽しみました。



①グラウンドでの模擬凧合戦。

②50mの仕掛け花火。素晴らしいナイアガラの滝が見られました。

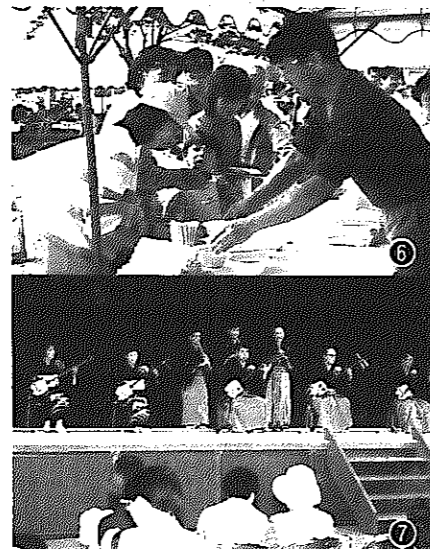
③夜空に舞った花火凧。④たくさんの方が自由に凧揚げを楽しみました。⑤カルチャーセンター内もたくさんの人出。⑥今年も好評だった無料豚汁「1万人のしろね鍋」。⑦市内のさまざまな伝統芸能が披露されました。



凧フェスティバル

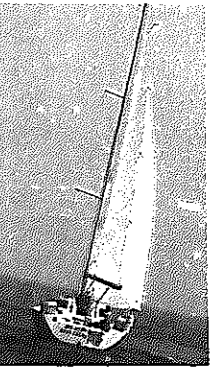


産業まつり



●高橋素晴さん(大通1・15歳)、ヨットで太平洋単独航海

大きな夢への 第一歩



高橋素晴さんがこの夏、ヨットで1人、サンフランシスコ(アメリカ)を目指して50日間1万キロの旅に出ました。途中、幾つかのトラブルに見舞われながらも、9月14日、無事にサンフランシスコへ到着。大きな夢への第一歩をしるした素晴さんにお話をうかがいました。

▶太平洋へ出航のとき(提供:サンケイ新聞)



「やっと風邪をひく余裕が出てきました」。そう話すのはこの夏、ヨットで一人、サンフランシスコ(アメリカ)を目指して1万キロを五十日かけて旅してきた高橋素晴さん(大通1・15歳)。帰国から約二週間後、長旅での緊張もようやくほぐれてきた様子で、五十日間のことを話してくれました。

素晴さんが「アドバンテージ号」で夢の島マリーナ(東京湾)を出発したのは、七月二十二日。しかし、エンジントラブルに見舞われ、引き返すことに。出発して間もない時点でのトラブルにも、「むしろトラブルがあったおかげで、落ち着いたかな。それよりも波が強くて酔ってしまったの方が大変でした」と話します。七月二十五日夜、

エンジンを修理して、千葉県千倉沖から再出発しました。

目標に向かって進むアドバンテージ号を途中、嵐が襲いました。「嵐がやんでエンジンをかけてみたら、動かなかった。無線や電気系統のための発電がすべてできない状態になってしまった」。エンジンが止まって、一日半くらいはつらかったけど、そう順風満帆にはいかないと思っていたから、覚悟はできていた。五日目というところ、長く感じるけど、一日一日を楽しもうと考えると短く感じましたね。

航海中のこぼれ話を尋ねると「途中、楽しみにしていたことがあったんですけど」と素晴さん。それは、持っていたトロリーングルアードで釣りをすることでした。「結局はカジキに針を持って行かれてあつてなく終わってしまいましたけど」。その代わり大型の鳥が釣れ、その鳥を煮たり焼いたりして食べました。筋が強くてくせがあつたけど、肉は(航海中)あまり食べられなかったもので、そういう意味ではおいしかったです」とか。

九月十四日、ようやくサンフランシスコへ到着。着岸すると、すでに渡米していた両親が素晴さんを出迎えていました。航海を終え、家庭に戻った素晴さん。前に「私たちは(サンフランシスコまで)過程の違う旅をしてきただけ。今回の旅で、子供たちにとっては世界中が家なんだと思えました」とお父さんの裕雄さん。無事を信じ、温かく見守っていたお母さんの千晴さんは「多くの方が航海の安全を祈ってください、その気持ちが一本

の糸になって、素晴を引っ張ってくれた。感謝したい」と話していました。

素晴さんに次の目標を尋ねると「世界一周かな」という答え。これからの進路については「ニュージランドでヨットをやれたら最高ですね」。はにかむ素晴さんの笑顔には、幾つものトラブルを乗り越えた強さとたくましさがかがえま



▲サンフランシスコへ到着

